

資料4-2-1

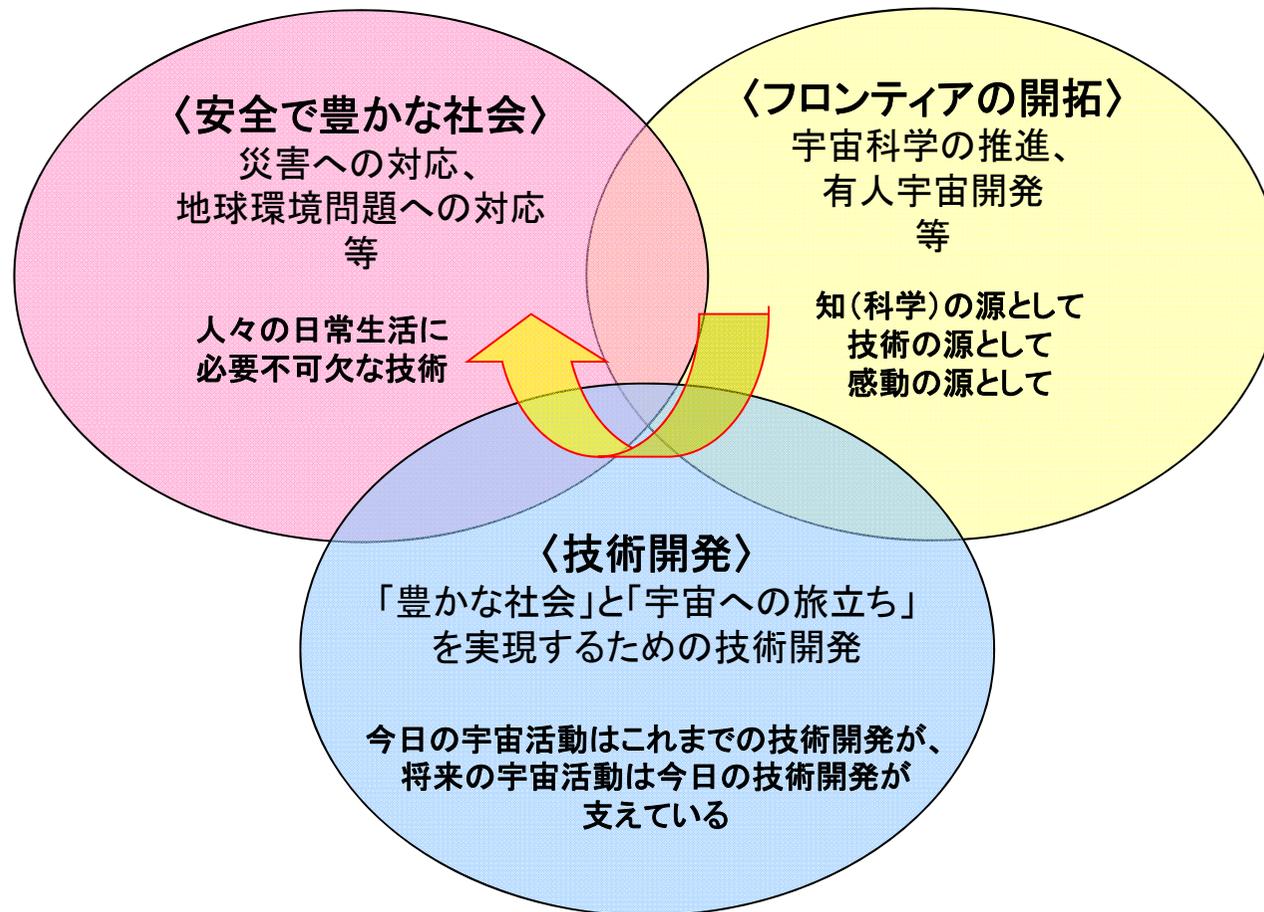
科学技術・学術審議会  
研究計画・評価分科会  
宇宙開発利用部会  
(第4回)H24.10.11

# 宇宙開発利用の発展のために

宇宙航空研究開発機構  
(JAXA)

樋口 清司

「宇宙開発とは、宇宙というフロンティアに挑戦し、人類が活用できる領域を開拓していくこと」ではないか。



○フロンティアの開拓は、新たな知(科学)、新たな技術、人間の活力の源泉である感動を生み出す源である。その源を基にして技術開発がなされ、安全で豊かな社会が築かれるものと思う。

○例えば、国際宇宙ステーション(ISS)を構築し、運用・利用していることは、地球低軌道というフロンティアを人類が常時活動できる領域として開拓しているものと解釈できる。また、未踏峰の地へ挑む活動は、人類が新たなフロンティアへアクセスする共通的技术を獲得するものと位置付けられる。

人類にとって、宇宙というフロンティアに挑戦し、人類が活用できる領域を開拓していくことは、次世代が安全で豊かな社会を築くための「明日への投資」であると思う。

### ○文部科学省への期待

- 上記のような宇宙開発を可能とする基本的能力(知力(科学)、技術力、事業を進めるシステムやマネジメント能力、人材など)を獲得するための施策に重点を置いていただきたい。
- また、同時に、安全で豊かな社会を築くための基本的知識と共通的技术を獲得するための施策を推進していただきたい。

○「文部科学省における宇宙分野の推進方策」で掲げる、「宇宙を知る」、「宇宙を支える」、「宇宙を使う」の3つの取組の方向性は、このような考え方で整理されているものと理解している。敢えてお願いするならば、「知る」を「拓く」と掲げてはいかがでしょうか。

以上